

第 1 回県都デザイン懇話会における論点（案）

テーマ 「県都福井の課題と議論の方向性」

○ 議論の前提・基本的な考え方

- ・「歴史に学び、未来を展望する」との観点から、まちの歴史を共有し、今後のまちづくりについての方針を導き出す
- ・本格的な人口減少・超高齢社会の到来など、社会構造の大きな変化を想定し、長期的な視点で都市機能をリニューアル
- ・2050 年までに、県庁舎・市庁舎を含め、多くの建造物が建替え時期を迎えることを想定
- ・将来像を描きつつ、できるところから事業に着手。早期に取り組むべきプロジェクトについては、国体開催や北陸新幹線開業という具体的な目標時期までに実現を目指す

○ 議論の方向性・視点

- ・県都の目指すべき姿、将来像について議論
- ・県都の魅力と求心力を高め、にぎわいのある「まちなか」をつくるための視点・手法等について議論

県都の魅力を高めるための視点（例）

- (1) 明治以降の近代化、戦災・震災、戦後の都市計画等により“埋もれた”歴史・文化の掘り起こし、まちづくりへの活用（福井城址周辺の整備など）
- (2) まちの第一印象を決める県都の玄関口（顔）の景観デザイン、美しい都市景観の形成
- (3) まちなかの自然（足羽川・足羽山）の活用、緑や水を活かしたまちづくり
- (4) 超高齢社会に対応した交通システムのあり方
- (5) 生活・仕事・交流等の場としてのまちなかエリアの魅力向上、まちづくり活動を活発化させる手法と人づくり